

令和8年3月6日

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	渋谷区立臨川幼稚園
所在地	渋谷区広尾 1-9-17

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

本園の園庭は、決して自然に恵まれた環境とは言えないが、好きな遊びの中で子どもたちが主体的に関わりをもとうとする対象は、虫であったり、土や砂であったり、草花であったりすることが多いことが分かる。自然を取り入れた遊びに夢中になる姿も多く、子どもたちが自然に対して、他の遊具にはない魅力を感じていることも伝わる。子どもたちが自然に触れる時に、何を感じているのか、何に魅力を感じているのか、子どもたちの思いにこの探究活動を通して私たちも近づきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

まず、子どもたちの興味関心や園庭の自然環境の実態について捉え、教師が話し合う機会を設ける。活動の最初の問いについて考える。

<5歳児>

10月「自然ってなあに？」というシンプルな問いから、子供たちの考えを聞くことができるようにし、言葉や絵で表現をする機会をつくる。

12月① 子どもにとって身近な果樹である園庭のアンズの木に触れたり木の形を体で表現したりしながら、じっくりとアンズの木を見ながら描く活動を進める。子どもの考えを聞く機会を設ける。

12月② 様々な機器を使って、枯れ葉や観葉植物の葉などをよく観察しながら描くようにする。

1月① 再度、様々な機器を使って葉を描く機会を設ける。描いた後、再び「自然ってなあに？」という問いを投げかけ、子どもの考えを聞く機会をつくる。

1月② 親子で機器を使った活動を体験できるようにする。また、講師の先生の話や話を聞く機会をもち、子どもの考えを尊重すること、ありのままを受け止める大切さについて共有できるようにする。

<4歳児>

11月－土粘土の塊を自由に触れるようにし、土の感触を楽しめるようにする。

12月－薄い土粘土の板を用意して、感触を味わいながら形を自由に変化させることを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・記録用の iPad（渋谷区貸与）、カメラ
- ・画像や動画を共有するための大型モニター ・幼児用テーブル、椅子
- ・ライトテーブル（トレース台）、卓上ライト、OHP
- ・虫メガネ、拡大鏡 ・描画用の様々な紙類、画材類 ・観葉植物、葉っぱ類
- ・土粘土、粘土板など

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

<5 歳児>

- ① 「自然ってなあに？」というシンプルな問いを受けて、子供たちが自分の考えを言葉や絵で表現する。
- ② それぞれの考えを共有する時間を設け、友達の考えに触れる。その後、子どもたちにとって身近な校庭の木や園庭のアンズの木に触れたり木の形を体で表現したりして木と対話できるようによく観察してみる。その後、じっくりとアンズの木を見ながら描いてみて、考えを言葉でも表現する。
- ③ 冬になり、園庭のアンズの木がすべて落ちて無くなってしまったことを感じながら、様々な機器を使って枯れ葉や観葉植物の生き生きとした葉などを観察して描いた後に、再度自然への考えを話す。友達とも共有する。
- ④ 親子で集まる機会をつくり、子どもたちがしてきた自然についての活動をお家の人にも紹介しながら一緒に楽しむことができるようにする。また、講師の先生をお招きし、保護者向けに、この活動をすることによって得られた子どもたちの動きや考え、子どものありのままの思いをまず受け止めることの大切さについてお話しいただいた。

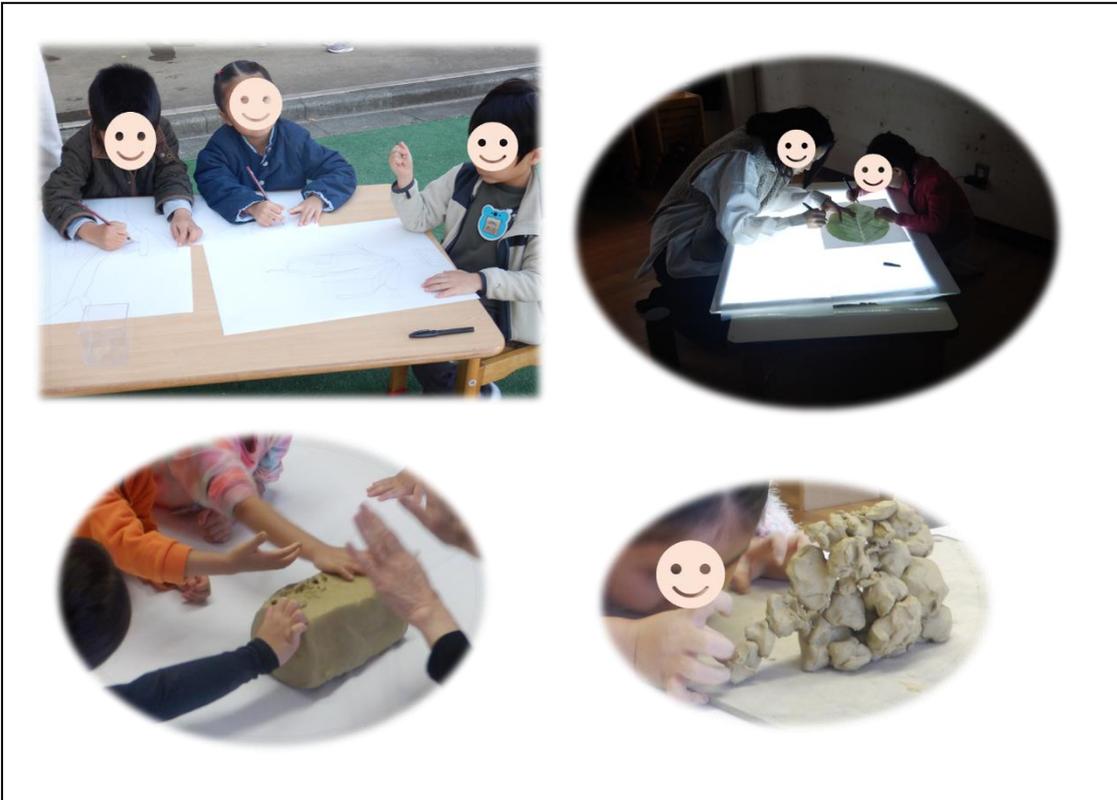
<4 歳児>

- ① 土粘土の塊を一人一つずつ渡し、土の感触を十分に味わいながら土粘土が変化していく様子を楽しむことができるようにした。土粘土という素材と手で対話する様子が見られた。
- ② 土粘土の薄い四角片を作り、一人一枚ずつ渡して、自由に自分の好きな形を作ることを楽しめるようにした。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

少人数で進めることで、ゆったりと安心して自分の言葉で話す様子があった。色彩豊かな画材や新しい機器を用いた活動では、より一層集中して見たり描いたりする姿があった。講師の先生の来園時だけでなく、再度、学級で少人数に分かれて「自然ってなあに」と問いかけた活動では、「木がたくさんあるところが自然。幼稚園はちよっぴり自然」「人も自然。人が使ったペットボトルも自然。ゴミも自然。人が使ったものだからつながってる」「自然と人間は向き合う関係」と話す姿があった。子どもたちが最初に話していたものとはまた違った角度で自然を表現する姿が見られ、保育者自身も子どもたちとのやり取りをとおして、子どもの事象の捉え方に気付くことができた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- 今回の探究活動を通して、子供たちが考える「自然」に触れ、子供たちが自然を語る中で「共存」「つながり」「循環」などの視点をもっていることに気付くことができた。
- 最初は問いに対して「分からない」と答えたり、自分なりの考えを言葉で表すことが難しい幼児もいたりしたが、繰り返し違った角度からの問いをしたり、友達の考えに触れる機会を作ったりしたことで、自分なりに考え、イメージし、仮説を立てることを楽しむようになっていった。
- 探究はキャッチボール、応答性が大事ということを講師の先生からもご教示いただき、改めて問いの大切さを実感することができた。子どもたちは自分の身の回りのこと、経験したことを記憶して感じて、つなげて捉えようとしているのではないか。子どもたちは自分が生活し生きていくのに何が必要かを把握していると感じた。
- 思わず触ってみたいくなる、覗いてみたいくなる、描いてみたいくなるような、心が動く環境の設定は、今後も参考にして、日々の保育のコーナーにも取り入れていきたい。
- 少人数での活動は、子どもたちが思いを表現していく過程で大変有効ではあるが、園内で人員配置を考え保育の体制を整えることが課題である。

以上